KPS

除菌器

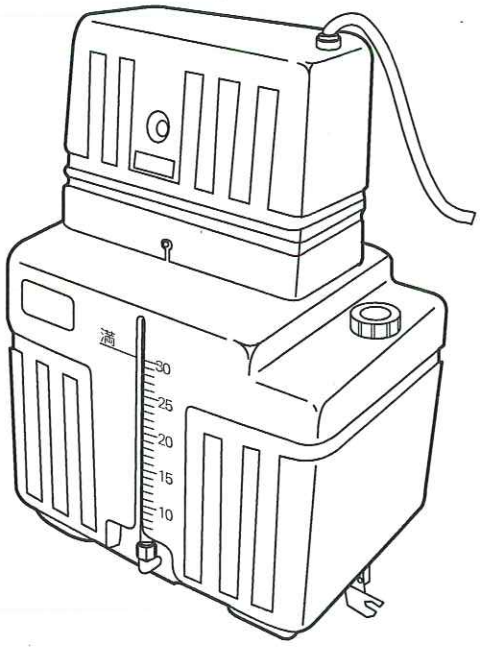
品　番 HE-30

「取扱説明書」お客様用 P1～P8
「据付説明書」販売店（工事店）様用 P9～裏表紙

お買い上げまことにありがとうございます。

- 「保証書」を受けとっていることを必ず確認してください。
- この「取扱説明書」と添付の「保証書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  お読みになった後は、いつでも取り出せるところに「保証書」とともに大切に保管してください。
- この商品を使用できるのは日本国内のみで、海外では使用できません。

This appliance is designed for domestic use in Japan only and cannot be used in any other country.



もくじ

取扱説明書 “お客様用”

ページ

■安全上のご注意 …… 1～3
■各部のなまえとはたらき …… 4
■使用上のご注意 …… 5
■ご使用方法 …… 5～7
■故障かな？と思ったときは …… 7
■アフターサービスについて …… 8

据付説明書 “販売店(工事店)様用”

ページ

■据え付け配管工事の手引き …… 9
・工事をされる方へのお願い …… 9
■据え付け前の確認事項 …… 10
■据え付け時のご注意 …… 10
■配管工事について …… 11
■配線工事について …… 11～13
■接続子の使用方法 …… 13
■試運転（次亜うすめ倍率早見表） … 14
■仕様 …… 裏表紙
■お客様への引き渡し（覚え書き事項） … 裏表紙

- 据え付けはお買い上げの販売店または工事店に依頼してください。
- ご購入除菌器の品番確認は次亜タンクの銘板表示をご覧ください。

機　能

本商品は、井戸水に井戸ポンプと連動して次亜塩素酸ナトリウムを注入し水道水並みに除菌する機器です。
※次亜塩素酸ナトリウム（以降、本取扱説明書では次亜と略します。）

上手に使って上手に節電

取扱説明書（お客様用）P1～P8

安全上のご注意

※ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
※ここに示した注意事項は、商品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」・「注意」に区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ **警告**：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠ **注意**：人が損害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

絵表示の例

⚠ △記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

プラグを抜く

●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

※お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠ 警告

分解禁止

改造しないでください。修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理をしないでください。
※発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

禁　止

次亜ポンプカバー（保護カバー）をはずしたまま使用しないでください。
※ほこりや絶縁劣化などで感電や火災の恐れがあります。

プラグを抜く

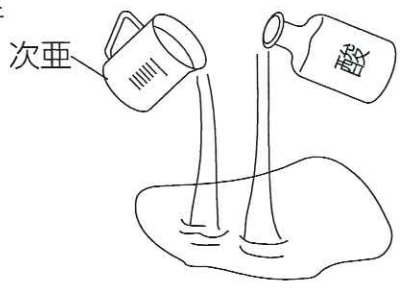
お手入れの際は必ず井戸ポンプの電源プラグを抜くか、または電源を切ってください。また、ぬれた手で抜き差ししないでください。
※感電をする恐れがあります。

強　制

配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行ってください。
※誤った配線工事は、感電や火災の恐れがあります。

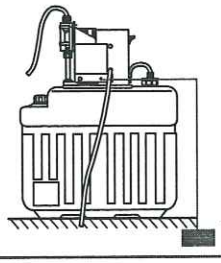
禁　止

次亜を酸性タイプの溶液(酸性の漂白剤など)と混合させないでください。
※有毒な塩素ガスが発生します。



アース線を接続する

アース線は確実に取り付け、専用の漏電遮断器を設置してください。
※故障や漏電のときに感電をする恐れがあります。



アース線の取り付けおよび漏電遮断器の取り付けはお買い上げの販売店または工事店にご相談ください。

D種接地工事

安全上のご注意

⚠ 警告

禁　止

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重いものを載せたり、挟み込んだり、加工したりしないでください。

※電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

強　制

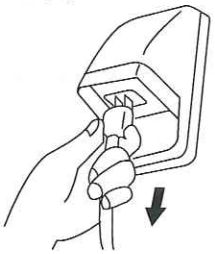
除菌器と水栓の間に混合タンクを必ず取り付けてください。

※次亜と水を混合させ除菌するのに必要です。

プラグを抜く

動かなくなったり、異常がある場合は、事故防止のため、すぐに井戸ポンプの電源プラグを抜くか、または電源を切ってお買い上げの販売店または工事店に必ず点検・修理をご依頼ください。

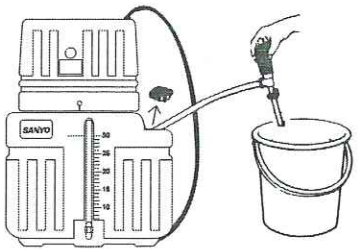
※感電や漏電・ショートなどによる火災の恐れがあります。



強　制

次亜は空になる前に補給してください。

※次亜がないと除菌できません。次亜がない状態での運転は、部品が劣化し故障の原因となりますので、早めに補給してください。



⚠ 注意

強　制

次亜が漏れたりこぼれたりした場合、周囲に影響を与えない場所に設置してください。

※動物・植物への大きな被害につながる 恐れがあります。

強　制

次亜の取り扱い（次亜とカナケのない清水とを混合させる際）は次亜がこぼれたりした場合、周囲に影響を与えない場所で行ってください。

※カーペットやフローリングなどの上に次亜がこぼれたりした場合、変色する恐れがあります。
※動物への大きな被害につながる恐れがあります。

禁　止

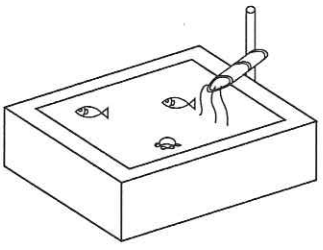
製品の上に物を載せたり、人が乗ったりしないでください。

※変形・破損によりけがをする恐れがあります。

禁　止

養魚用の水には使用しないでください。

※残留塩素（カルキ）が魚に悪影響を与えます。



安全上のご注意

⚠ 注意

強　制

毎日、使用前に残留塩素（カルキ）の量と次亜の残量を確認してください。

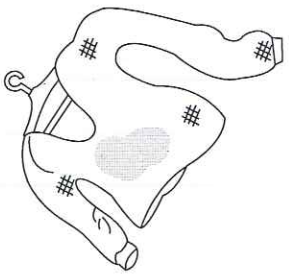
※井戸水の水質や揚水量の変化により残留塩素が変動したり、次亜が注入されないと体に害を与える恐れがあります。

禁　止

次亜を体や衣服に付着させないでください。

※炎症をおこす恐れがあります。（万一付着したときは、水洗いし、症状がひどい場合は、医師の診断を受けてください）

※衣服に付着させると色があせる恐れがあります。

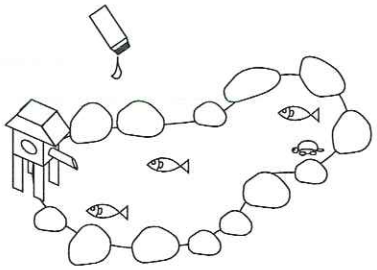


強　制

次亜や残留塩素測定試薬を捨てる際には、必ずうすめてから下水に捨ててください。

※池や川などに流しますと、魚などに影響を与えます。

※植物などにかけると枯れる恐れがあります。



強　制

次亜や残留塩素測定試薬はお子さまの手の届かない冷暗所に保管してください。

※薬液を飲用すると体に害を与えます。

※冷暗所に保管しないと薬品の除菌力が弱まります。

プラグを抜く

長期間ご使用にならないときは必ず井戸ポンプ の電源プラグを抜くか、または電源を切ってください。また、ぬれた手で抜き差しないでください。

※絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。

禁　止

除菌器に毛布や布をかぶせたり次亜ポンプカバー内に燃えやすい物を入れないでください。

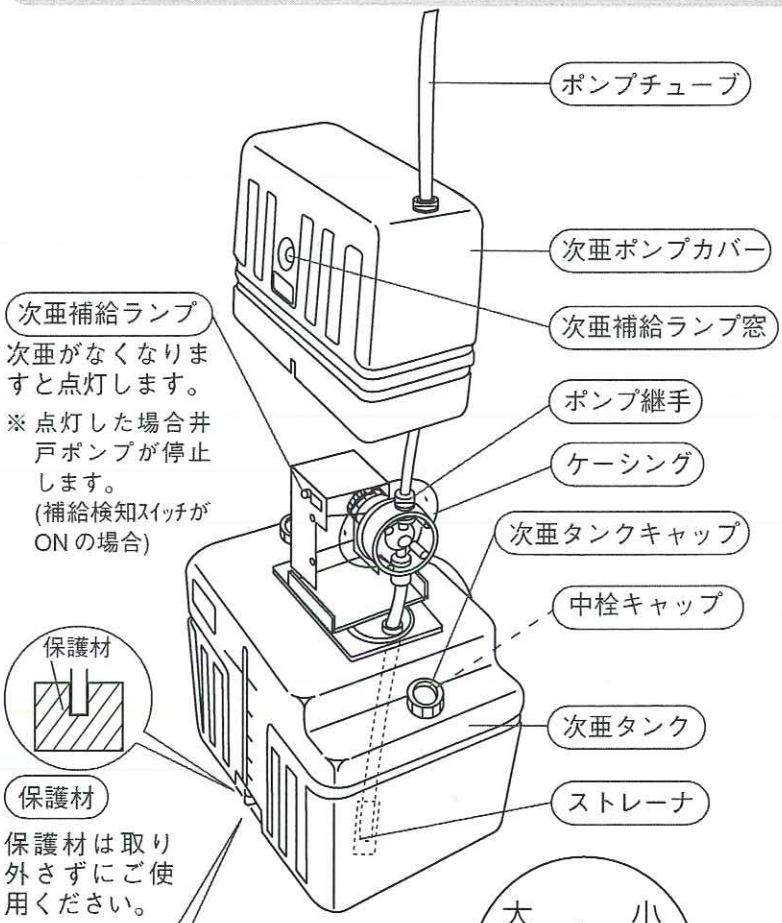
※過熱して発火したり、故障の原因になります。

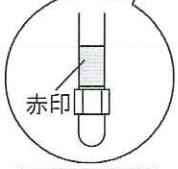
強　制

付属の計量カップ、ホースポンプ、用意していただいたポリバケツは灯油には使用しないでください。

※灯油補給などと共用しますと水が飲めなくなります。

各部のなまえとはたらき





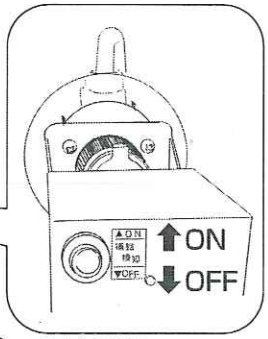
次亜水位計

次亜量がわかります。

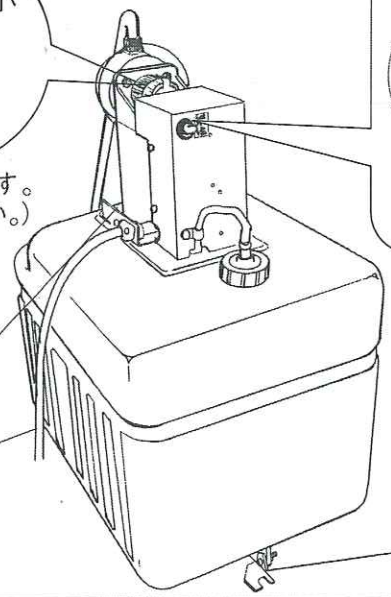
※ 赤印位置になる前に次亜の補給を行ってください。

ダイヤル

次亜注入量を調整します。
(7ページを参照ください。)



● 補給検知スイッチ
ON／OFF



補給検知スイッチのON/OFFについて

本機は次亜タンク内の次亜がなくなったとき、井戸ポンプ、除菌器ともに停止する構造になっていますが、補給検知スイッチをOFFにすることにより次亜タンクに次亜が無い状態でも井戸ポンプを運転させることができます。

ご注意

補給検知スイッチをOFFにされている間、補給検知は動作しませんので通常はONにしてご使用ください。

次亜補給ランプについて

次亜の残量が約2Lになると、次亜補給ランプが点灯して、運転を停止します。
次亜を30の表示位置まで補給してください。

応急運転について

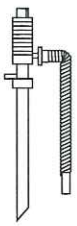
次亜補給がすぐにできない時は、除菌器の補給検知スイッチをOFFにすると、次亜の残量約2Lで応急の除菌運転ができます。

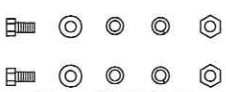
ご注意

補給検知スイッチをOFFにして応急の除菌運転をされた場合は、次亜を補給した後スイッチをONへ戻してください。
戻されない場合は、補給検知機能が働きません。この時は、次亜が完全になくなっても、ポンプの運転は止まらず、除菌ができなくなりますのでご注意ください。

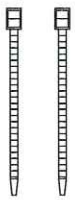
●付属品

計量カップ


ホースポンプ

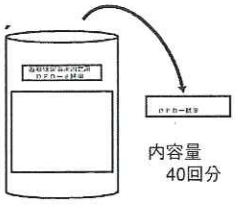

ボルト（本体固定用）
ワッシャー（大）
ワッシャー（小）
ワッシャー（バネ）
ナット
各2ケ

ブッシング
(1/2B X 3/8B)


結束バンド

接続子

水質試験器


残留塩素測定試薬
内容量
40回分

試験管

残留塩素用比色板

● 次亜補給の際使用する付属の計量カップ、ホースポンプ、別途用意いただくポリバケツは次亜補給専用としてください。
※ 灯油補給などと共用しますと水が飲めなくなります。

● 残留塩素濃度を付属の水質試験器で測定します。

使用上のご注意

● **据え付け前後、および定期的に保健所で水質検査を行ってください。**

※ 井戸水の水質が変化する場合がありますので、定期的に水質検査をしてください。

※ 鉄分（10mg/L 以下）が含まれているときは、除鉄槽（HI-S30）と組み合わせてご使用ください。

水質検査を依頼する際、次のことに注意してください。

1．水質検査（化学試験・細菌試験）には、井戸原水と除菌器を通した処理水が必要です。

2．細菌試験をされる場合

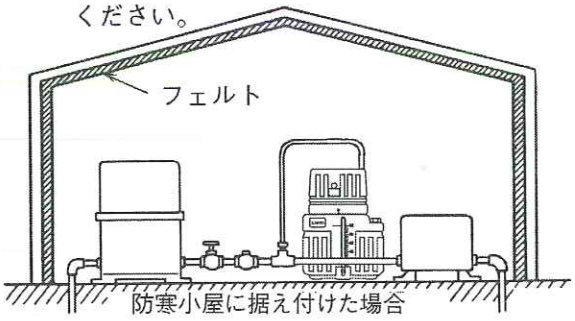
① 細菌試験の採水容器は、保健所で滅菌したものをご使用ください。

② 細菌が付着しないように、容器や栓の内側には手などを触れないでください。

③ 容器が汚染されないように短時間で採水し、すぐに保健所へ依頼してください。その他、水質検査方法については、各地の保健所にご相談ください。

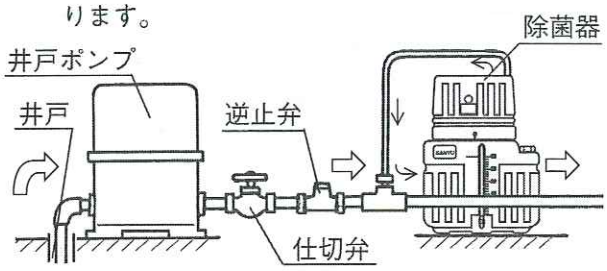
● **冬季には必ず凍結防止策を行ってください。**

※ 次亜の補給や修理点検が容易にできるスペースを設け、夏期には通風ができるようにしてください。



● **夜間でも井戸ポンプの電源を切らないでください。また、停電したときは仕切弁を閉じてください。**

※ 万一、配管の逆止弁と井戸ポンプの逆止弁が故障したとき、水落ちにより次亜が逆流することがあります。



● **次亜と残留塩素測定試薬の取り扱いについて**

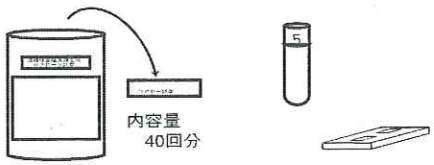
※ 次亜（次亜塩素酸ナトリウム）および残留塩素測定試薬は無くなりましたら、お買い上げの販売店などでお求めください。

次亜は所定の５％濃度以外のものは使用しないでください。

■別売部品（商品扱い）

除菌器用薬液（HIF-11）

水質試験器(ｻｰﾋﾞｽ部品ｺｰﾄﾞ639 013 2093)



ご使用方法

次亜の補給

※ 次亜水位計が赤印位置になる前に次亜の補給を行ってください。

次亜の補給周期の計算

次亜を補給してから次に補給するまでの目安時間。

ダイヤル目盛	再補給するまでの使用時間（h）	
	50Hz地帯	60Hz地帯
1	64	52
2	46	33
3	32	28
4	27	23
5	23	18
6	20	17
7	18	15
8	17	14
9	15	13
10	14	12

次亜補給周期（日数）

$$日数＝\frac{再補給するまでの使用時間}{1日あたりの使用時間}$$

＜例＞

50Hz 地域で、ダイヤル目盛5、1日あたりの使用時間が 1 時間のとき

$$日数＝\frac{23（時間）}{1（時間）}＝23$$

23 日毎に補給してください。

ご使用方法

次亜のうすめ倍率については14ページの次亜うすめ倍率早見表をご覧になり、お使いの井戸ポンプに応じたうすめ倍率を決めてください。

次亜の補給のしかた

1. ポリバケツを用意いただ算出していただいたうすめ倍率分だけ、次亜と水を付属の計量カップを使用してポリバケツに入れてよくかきまぜてください。

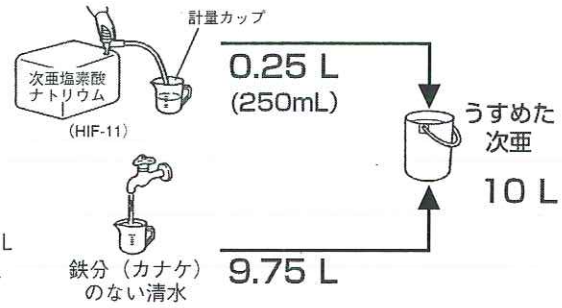
〈例〉井戸ポンプ揚水量20L／分の場合、14ページの次亜うすめ倍率早見表より、うすめ倍率は40倍となります。

うすめ倍率40の次亜を作る場合

うすめ倍率から次亜の量を算出し、次亜と鉄分（カナケ）のない清水でうすめた次亜が10Lになるようにします。

次亜（5%別売）➡$\frac{\text{うすめた次亜10L}}{\text{うすめ倍率40倍}}$＝0.25L（250mL）

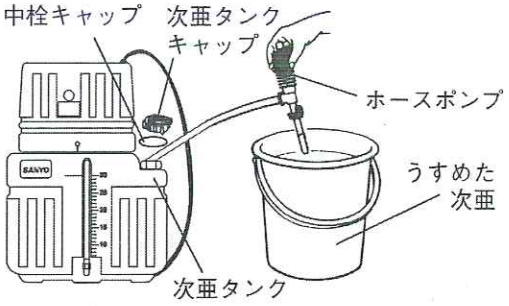
鉄分（カナケ）のない清水➡うすめた次亜10L－次亜（5%別売）0.25L（250mL）＝9.75L



※ 次亜をうすめるために使用する水は鉄分（カナケ）のない清水を必ず使用ください。

※ 30L補給する場合、上記1～2の項目を3回繰り返してください。

2. 次亜タンクの次亜タンクキャップを取りはずしてください。次亜タンクに付属のホースポンプを使用してうすめた次亜を補給してください。



※ 次亜タンクの容量は30Lです。次亜水位が満印（目盛「30」）位置を越えないよう補給してください。

● 付属の計量カップ、ホースポンプ、用意していただいたポリバケツは次亜補給専用とし、使用後は水洗いして次亜と共に保管してください。

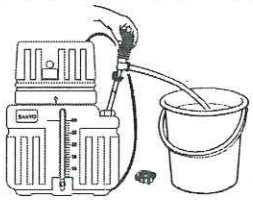
※ 灯油補給などと共用しますと水が飲めなくなります。

3. 補給後は中栓ｷｬｯﾌﾟ、次亜ﾀﾝｸｷｬｯﾌﾟおよび次亜（別売）のキャップをしっかりと締めてください。

※ しっかりと締めないと薬品の除菌力が弱まり本来の性能を発揮できなくなります。
また、残った次亜はお子さまの手の届かない冷暗所に保管してください。

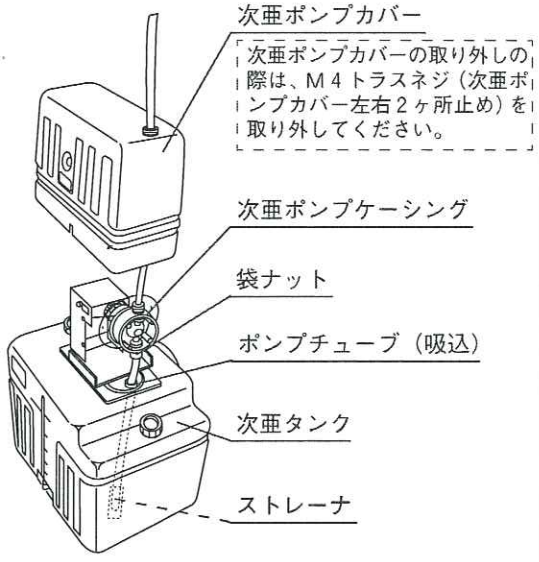
・次亜タンク内のお手入れ

※ 次亜タンク内の底に酸化物が沈殿する場合がありますので、その際には付属のホースポンプを使用して、取り除いてください。



・吸込ポンプチューブストレーナのお手入れ

※ 次亜タンクへゴミ等が混入しないように、ポンプチューブ（吸込）先端にストレーナ（フィルター）がついております。
次亜の薬液を補給しても残留塩素濃度が据え付け時よりうすい場合には、下記のお手入れを行ってください。



＜お手入れのしかた＞

1. 除菌器の次亜ポンプカバーを取りはずし、除菌器の次亜ポンプケーシングの下に取り付いている袋ナットをはずして、次亜タンクにさし込まれているポンプチューブ（吸込）を引き抜きますと、先端にストレーナがついています。
2. ストレーナに異物が付着し、目が詰まっているような場合は、清水で異物を取り除いてください。
3. お手入れが終わりましたら、1.の逆の手順で元の位置に取り付けてください。

ご注意

次亜が体や衣服につかないようにご注意ください。

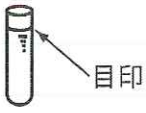
ご使用方法

次亜注入量（ダイヤル）の調整方法

井戸水（地下水）の水質が変化して、カルキ臭が強くなったり、全くしなくなる（除菌が不安定になる）ことがあります。このような場合は、残留塩素が0.4～0.7ppmになるよう、下記の手順に従い次亜ポンプのダイヤル目盛を調整してください。

1. 水栓を全開にします。（同時に使用される可能性が高い水栓は全て全開にします。）

2. 5分間以上 水を流した後、付属の残留塩素測定試薬で残留塩素濃度を測定してください。

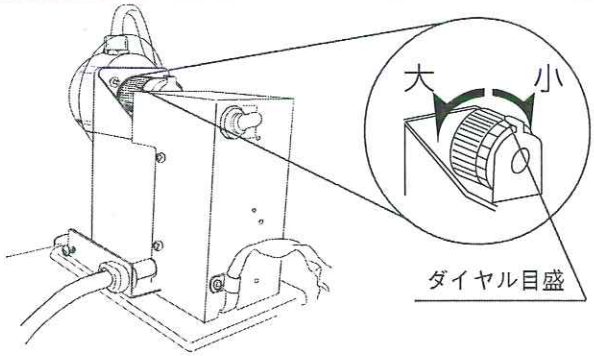
①試験水で試験管を洗い試験水を目印まで採取します	②残留塩素測定試薬を1袋加えます。	③よく振り混ぜます。	④水の色と比色板の色とを比較し、残留塩素濃度(ppm)を測定します。
			試薬を入れてから約1分以内に色を比べてください。

3. 残留塩素濃度が0.4～0.7ppmの範囲内になるよう、ダイヤルを調整します。

残留塩素濃度が 0.4ppm 以下の場合
ダイヤル目盛を大きい方へ0.5目盛回す。

残留塩素濃度が 0.7ppm 以上の場合
ダイヤル目盛を小さい方へ0.5目盛回す。

※ 残留塩素濃度が 0.4 ～ 0.7ppm の範囲内になるまで 2 ～ 3 の項目を繰り返し行ってください。



⚠ 警 告

次亜や残留塩素測定試薬はお子さまの手の届かない冷暗所に保管してください。

強 制

※薬液を飲用すると体に害を与えます。
※冷暗所に保管しないと薬品の除菌力が弱まります。

故障かな？と思ったときは

故障かな？と思われましたら、修理を依頼される前に下記の表をご覧になり適切な処置をお取りください。

こんなときは	原 因	処 置	参照ページ
カルキ臭が強い。	① 井戸水が変化している。 ② ﾀﾞｲﾔﾙ目盛が調整位置から動いている。 ③ 次亜が濃すぎる。	① 次亜注入量を調整する。 ② もとの調整位置に合わせる。 ③ うすめ倍率を調整する。	7 7 6
次亜ポンプが動作している様子がなく、カルキ臭がしない。	① モーターが故障して次亜ポンプが 動作しない。	① 販売店または工事店に連絡する。	―
次亜ポンプが動作しているが、カルキ臭が弱い。 または、カルキ臭がしない。	① 次亜をうすめすぎている。 ② 井戸水が変化している。 ③ ダイヤル目盛が調整位置から動いている。 ④ 除菌器のケーシング内の次亜が抜けており、次亜ポンプが正常動作していない。 ⑤ 補給検知スイッチがOFFで次亜がからになっている。（次亜補給ランプ点灯） ⑥ ストレーナがつまっている。	① うすめ倍率に従って次亜を正確にうすめてください。 ② 次亜注入量を調整する。 ③ もとの調整位置に合わせる。 ④ ケーシング内に次亜を満たして、運転させてください。 ⑤ 次亜を補給し、補給検知を ON にする。 ⑥ ストレーナを掃除する。	7 7 7 14 14 6
水栓から水がでない	① 補給検知スイッチがONで次亜タンクが空になっている。（次亜補給ランプ点灯） ② 井戸ポンプが故障している。	① 次亜を補給する。 ② 井戸ポンプの取扱説明書をご覧になり、販売店または工事店に連絡してください。	6 ―

※ 以上のことを確認されても症状が解消されない場合は、すぐに井戸ポンプの電源を切ってお買い上げの販売店または工事店に点検・修理をご依頼ください。

アフターサービスについて

1.保証書

●この商品には保証書がついています。

保証書は別に添付しております。販売店（工事店）から受け取っていただき必ず「販売店名・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

2.修理を依頼されるとき

●保証期間中の修理

保証期間はお買い上げ日より１年間です。保証書の記載内容により、お買い上げ販売店（工事店）が修理いたします。くわしくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているときは

修理により使用できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。くわしくは、お買い上げ販売店（工事店）にご相談ください。

●修理点検でポンプ以外に原因があった場合は保証期間内でも有料になることがあります。

3.補修用性能部品の保有期間

ポンプの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後８年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

4.アフターサービスについてご不明の場合

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店（工事店）へお問い合わせください。

また、ご転居やご贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にお問い合わせください。

お客さまご相談窓口

■まずはお買い上げの販売店へ・・・

製品の修理及び部品のご依頼やご相談は、お買い上げの販売店へお申し出ください。
転居や贈答品でお困りの場合は、下記の相談窓口にお問い合わせください。

アフターサービス相談窓口

◆フリーダイヤル **0120-388-365** 携帯電話からも通話可能です。

◆お問い合わせ時間 365日9:00～19:00受付け致します。
JBR［ジャパンベストレスキューシステム（株）］が代行致します。

ポンプの技術相談窓口

◆フリーダイヤル **0120-340-841** 携帯電話からも通話可能です。

◆お問い合わせ時間　平日（月曜日～金曜日）8:30～12:00、13:00～17:00　土日祝日及びゴールデンウイーク・年末年始・夏期休暇等の当社指定休日は休ませていただきます。

⚠安全に関するご注意

●ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

●消費電力が１kW以上の機器は、定格15A以上の電源コンセントに直接接続してお使いください。火災の原因となります。●アースを確実に取り付け、専用の漏電遮断器を設置してください。故障や漏電のときに感電する恐れがあります。アースの取り付けは販売店にご相談ください。●電気配線、配線工事は電気設備技術基準や内線規定に従って安全・確実に行って下さい。●用途にあった商品をお選びください。不適切な用途で使われますと、事故の原因になることがあります。●床面が防水処理・廃水処理されているか確認してください。水漏れが起きた場合、大きな被害につながる恐れがあります。

愛情点検

★長年ご使用のポンプの点検を★

このような症状はありませんか	●運転するとブレーカーや漏電遮断器が動作する●ポンプは運転するが、水栓を開いても水が出ない。●水を使用していないのに、ポンプが運転する。●コード類に“ひび割れ”や“傷”がある。●運転中に異常な音や振動がする。●水漏れがする。（ポンプヘッド部、圧力タンク、継ぎ手など）●焦げ臭い“におい”がする。●触れるとピリピリと電気を感じる。●その他の異常がある。

●このような症状のときは、故障や事故防止のため、電源プラグをコンセントから抜いて、または電源を切ってから必ず販売店に点検・修理を御相談ください。

［保証書に関するお願い］●商品には保証書を添付しております。ご購入の際は、必ず保証書をお受取りの上、保管ください。尚、店名、ご購入年月日の記載のないものは無効となります。
●商品の補修用性能部品の保有年数は、製造打切り後８年です。
［その他付記事項］●製品の定格およびデザインは改善等のため予告なく変更する場合があります。●製品の色は印刷物ですので実際の色と多少異なります。

KPS
ケーピーエス工業株式会社
〒619-0238　京都府相楽郡精華町精華台9丁目1番3
TEL 050-3537-8808(代)
URL　http://www.kps-k.co.jp/

● 据え付けはお買い上げの販売店または工事店に依頼してください。
※ ご自分で据え付け工事をされ、不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。

据え付け配管工事の手引き

工事をされる方へのお願い

- 製品の機能が十分に発揮できるように、この「据付説明書」の内容に沿って正しく据え付けてください。
- 据え付け後は必ず試運転を行い、水漏れや運転状態に異常がないか確認してください。
- 工事の前に、この「工事をされる方へのお願い」をよくお読みのうえ、正しく据え付けてください。
- ここに示した注意事項は、商品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」・「注意」に区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ **警告**：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠ **注意**：人が損害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

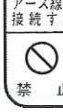
絵表示の例

△記号は、警告・注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠ 警告

配線工事は、電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行ってください。	誤った配線工事は、感電や火災の恐れがあります。
改造しないでください。修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理をしないでください。	火災、感電、けがの原因となります。修理はお買い上げの販売店またはお客さまご相談窓口にご相談ください。
除菌器の設置の際は必ず井戸ポンプの電源プラグを抜くか、または電源を切って行ってください。	感電やけがをすることがあります。
動かなくなったり、異常がある場合は、事故防止のため、すぐに電源を「切」にしてお買い上げの販売店に必ず点検修理をご依頼ください。	感電や漏電・ショートなどによる火災の恐れがあります。
コード類を傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重いものを載せたり、挟み込んだり加工したりしないでください。	コードが破損し、火災・感電の原因になります。
アース線を確実に取り付け、専用の漏電遮断器を設置してください。	故障や漏電のときに感電する恐れがあります。
 工事後、次亜ポンプカバーは必ず取り付けてください。	ほこりや絶縁劣化などで感電や火災の恐れがあります。

⚠ 注意

製品の上に物を載せたり、人が乗ったりしないでください。	変形・破損によりけがをする恐れがあります。
除菌器に毛布や布をかぶせたり次亜ポンプカバー内に燃えやすい物を入れないでください。	加熱して発火したり、故障の原因になります。
次亜が漏れたりこぼれたりした場合、周囲に影響を与えない場所に設置してください。	動物・植物への大きな被害につながる恐れがあります。

据え付け前の確認事項

1．据え付け前に、井戸水の水質検査を保健所に依頼してください。
- ● 原虫（クリプトスポリジウム）は除菌できません。※0.1ミクロン以下のフィルター浄水器を用いて濁度を0.1度以下に維持してください。
- ● 鉄分（カナケ）やマンガンを含んだ水には使用しないでください。
- ※ 鉄分（カナケ）を含んだ井戸水に使用しますと、水栓から赤い水がでます。
  鉄分が10mg/L以下の場合、除鉄槽(HI-S30)と組み合わせてご使用ください。
- ● 養魚用水には使用しないでください。
- ※ 水道水と同様にカルキ分が魚に悪影響をおよぼします。

2．電源を確認してください。
- ● 接続する井戸ポンプの電源と合っているかどうか確認してください。（50/60Hz‥‥交流100Ｖ）

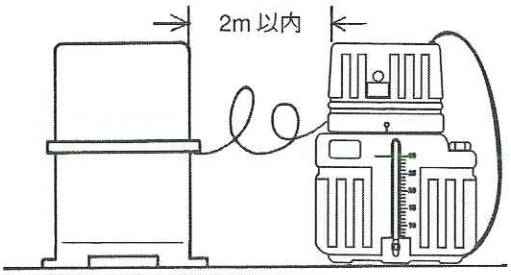
3．据え付け場所の確認
- ● 点検・修理のしやすい場所を選んでください。

4．組み合わせ井戸ポンプの確認を行ってください。
- ● 水圧300kPa（3kgf/cm²）を越える井戸ポンプ、流量スイッチで停止する井戸ポンプには使用しないでください。

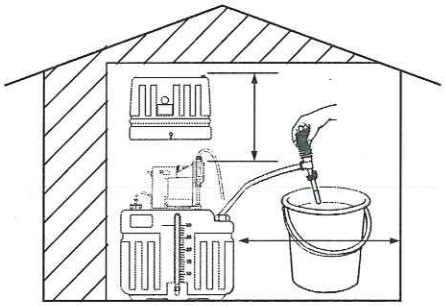
据え付け時のご注意

井戸ポンプの配管の近くに据え付けてください。

※電源コードの長さは２ｍです。

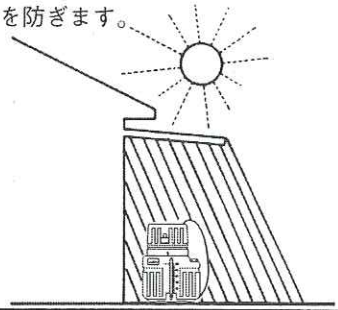


次亜の補給・修理点検が容易にできるスペースをとってください。



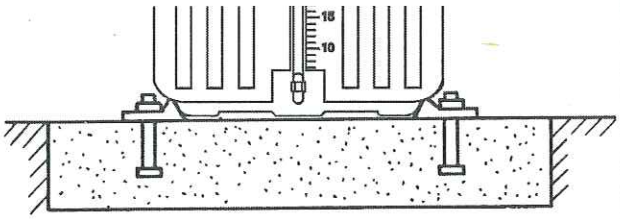
直射日光の当たらない屋内または、日陰に据え付けてください。

※次亜濃度の低下を防ぎます。

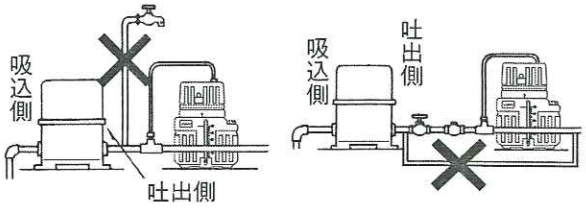


平らな場所に設置し、動かないようアンカーボルトで固定してください。

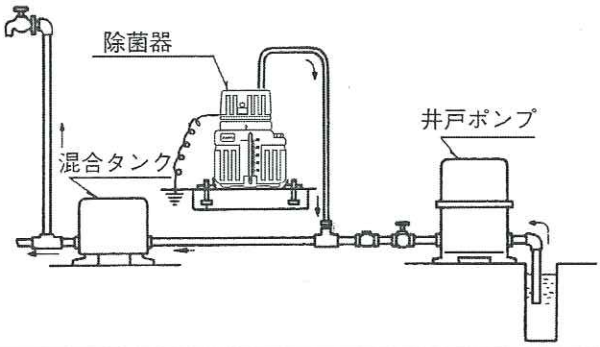
※付属のボルトをご使用ください。
※基礎はコンクリートでつくることをおすすめします。



井戸ポンプと除菌器の間に水栓を設けないでください。
また、バイパス配管はしないでください。



水栓の高さは、必ず除菌器より高くなるように配管してください。



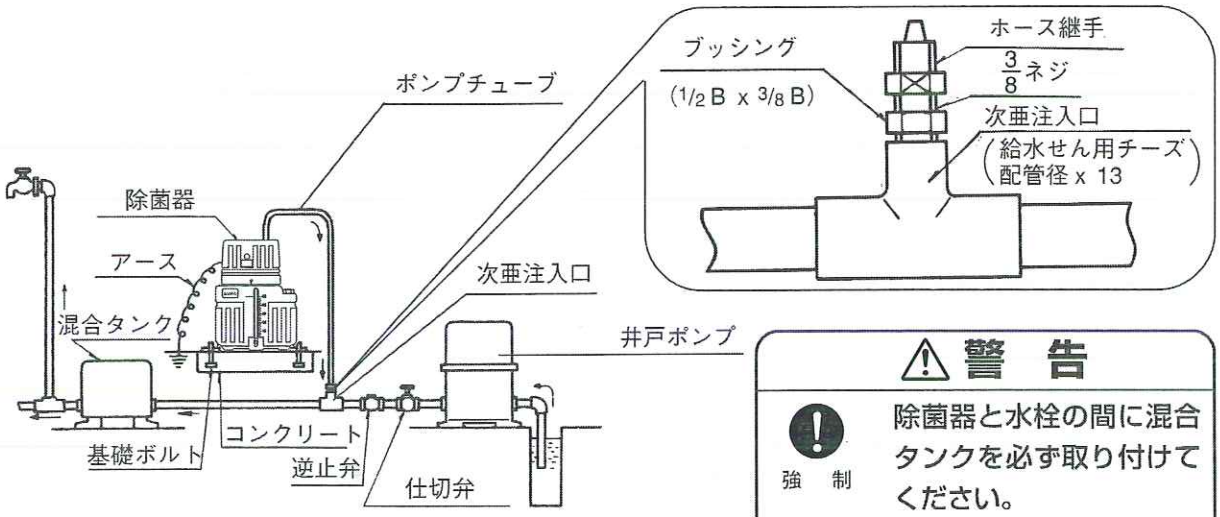
配管工事について

井戸ポンプとの配管接続

● 配管は、硬質塩化ビニル管またはポリエチレン管を使用してください。
※ 金属配管は腐食します。

● 井戸ポンプと除菌器（次亜注入口）の配管の間には、逆止弁、仕切弁を取り付けてください。
※ 逆止弁は井戸ポンプ停止時に万一降水した場合、次亜が井戸へ逆流するのを防ぎます。

● ホース継ぎ手およびブッシングなどには、シールテープを使用して確実に配管してください。



⚠ 警 告

強 制

除菌器と水栓の間に混合タンクを必ず取り付けてください。
※ 次亜と水を混合させ除菌するのに必要です。

配線工事について

⚠ 警 告

強 制

配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行ってください。
※ 誤った配線工事は、感電や火災の恐れがあります。

⚠ 警 告

アース線を接続する

アースは確実に取り付け、専用の漏電遮断器を設置してください。
※ 故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

アース工事は、湿気やほこり、その他の原因により、万一絶縁が悪くなったときに起こる感電を防止し、安全にご使用いただくために必要です。
※ アース線は必ず次亜ポンプのアース線接続用ネジから引き出してください。

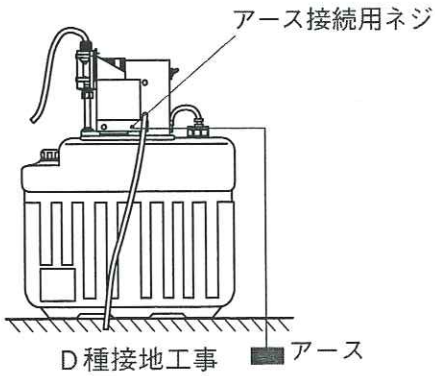
アースについて

① D種接地工事（接地抵抗100Ω以下）をしてください。

② 既設のアース端子があるときはアースが十分かどうかを確認し、設置してください

③ 水道管へのアース線の接続は、途中から塩ビの場合、アースになりませんので、ご使用にならないでください。

④ ガス管へのアース線の接続は危険ですから絶対しないでください。



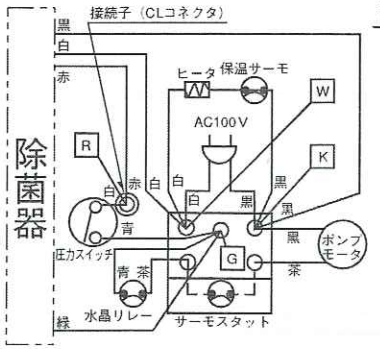
漏電遮断器について

・ 漏電遮断器は〈PS〉Eマークのある感度電流15mA以下、動作時間0.1秒以下で定格電流以上のものをお使いの井戸ポンプの電路に取り付けてください。

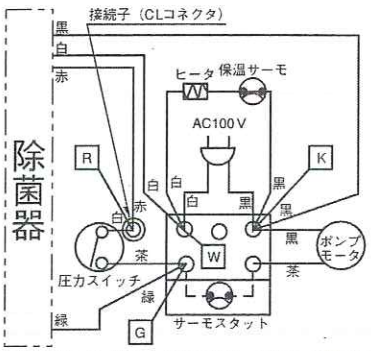
配線工事について

除菌器と井戸ポンプ（単相１００Ｖ）の結線方法

井戸ポンプ（単相100Ｖ）配線図



当社浅井戸用ポンプ（250W以下）
品番：P-H80,P-H125,P-H150,P-H200,P-H250

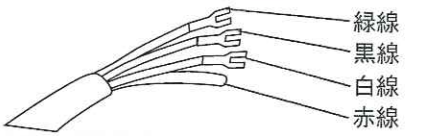


当社浅井戸用ポンプ（400W）　品番：P-H400
当社浅深兼用ポンプ　品番：PC-H150,PC-H250,PC-H400

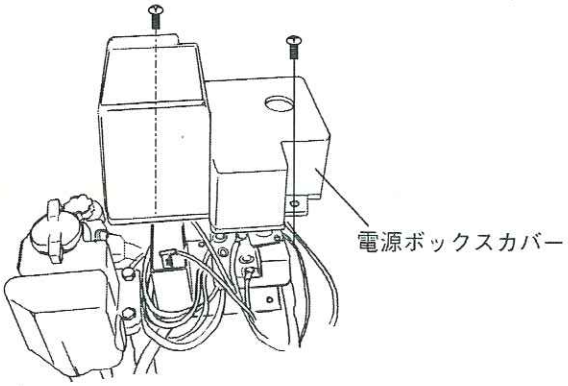
⚠警　告

結線をする際は必ず井戸ポンプのプラグを抜くか、または電源を切ってください。また、ぬれた手で抜き差ししないでください。
※ 感電をする恐れがあります。

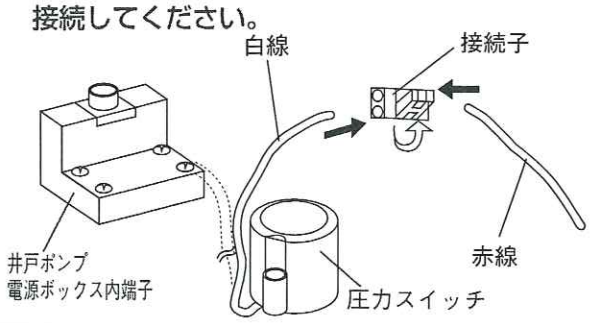
1. 井戸ポンプの電源プラグが抜かれているか確認してください。
2. 除菌器よりでている電源コードは緑,黒,白,赤の4芯線がでていますので確認してください。



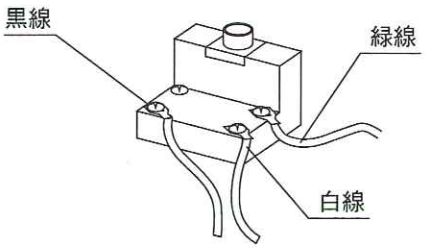
3. 井戸ポンプの電源ボックスカバーを取りはずしてください。（２カ所ネジをはずしてください）



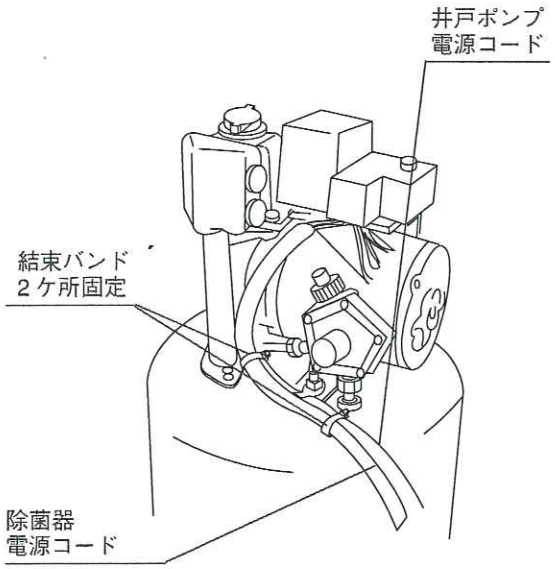
4. 井戸ポンプの電源ボックス内の端子に接続されている白線（圧力スイッチにつながっているもの）をはずして、丸形端子を切り取ってください。
（脱皮はしなくて結構です）
次に、付属の接続子を使用して除菌器の赤線とを接続してください。



5. 井戸ポンプの電源ボックス内の所定の端子３カ所に除菌器の緑、黒、白線をそれぞれ結線します。



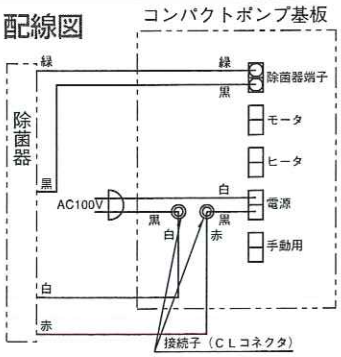
6. 結線が終わりましたら井戸ポンプの電源ボックスカバーを元どおり取り付けてください。
7. 除菌器の電源コードを井戸ポンプの電源コードに付属の結束バンドで２カ所固定してください。



配線工事について

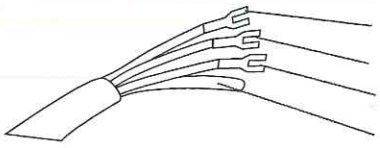
コンパクトポンプ（単相１００Ｖ）の結線方法

コンパクトポンプ（単相１００Ｖ）配線図

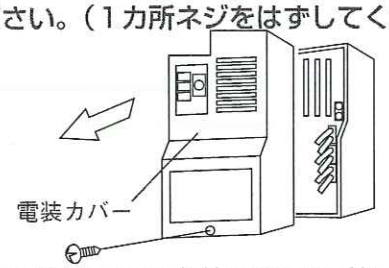


ご注意　コンパクトポンプと除菌器を接続する際、別途接続線（斡旋品）が必要となります。

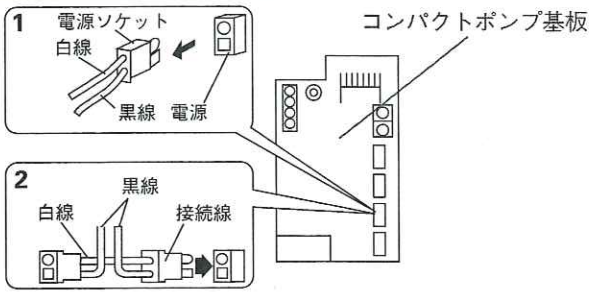
1. コンパクトポンプの電源プラグが抜かれているか確認してください。
2. 除菌器よりでている電源コードからは緑，黒，白，赤の４芯線がでていますので確認してください。



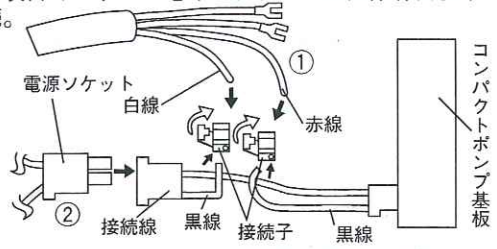
3. コンパクトポンプの電装カバーを取りはずしてください。（１カ所ネジをはずしてください。）



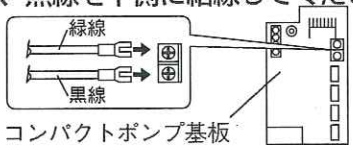
4. コンパクトポンプ基板の電源に差し込まれている電源ソケットを抜いて、下図のように接続線(斡旋品)を基板の電源に接続してください。



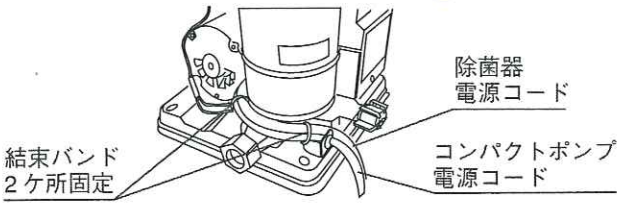
5. コンパクトポンプ基板の電源に接続した接続線(斡旋品)に下記の手順で結線を行ってください。
   ① 除菌器の白線のＹ型端子を切り取ってください。
   (脱皮はしなくて結構です。)
   次に、除菌器の白、赤線を付属の接続子で接続線に結線。
   ② ４の項目ではずした電源ソケットを接続線(斡旋品)に接続。



6. コンパクトポンプ基板の除菌器端子に除菌器の緑線を上側、黒線を下側に結線してください。



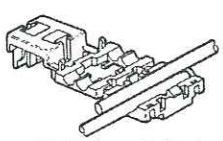
7. 結線が終わりましたらコンパクトポンプの電装カバーを元どおり取り付けてください。
8. 除菌器の電源コードをコンパクトポンプの電源コードに付属の結束バンドで２カ所固定してください。



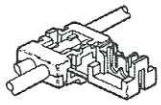
運転状態の確認

● 除菌器の配管、配線の接続が終わり異常なく運転を開始したら、水栓を開閉し井戸ポンプと除菌器が同時に運転・停止しているか、また配管から漏れがないか確認してください。

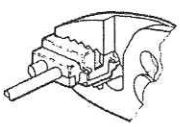
接続子の使用方法



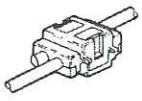
１．電線をコネクタの溝に沿わせて置く。



２．電線を仮固定する。



３．プライヤでロックするまでしっかり押さえる。

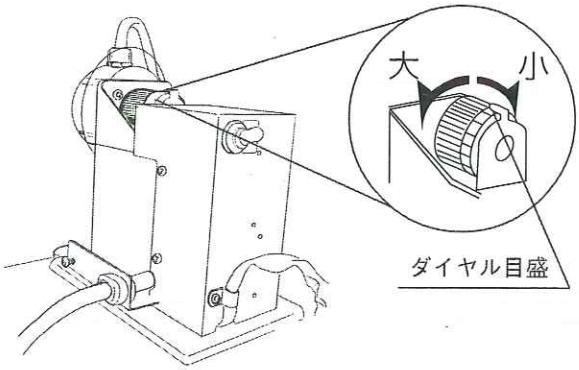


４．接続完了

試運転

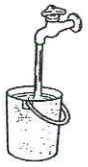
次亜うすめ倍率早見表（目安）

ポンプ揚水量（L／分）	うすめ倍率	次亜ポンプのダイヤル目盛	
		50Hz地域	60Hz地域
10	40	2.2	1.8
20	40	4.8	4.0
30	20	3.4	2.9
40	10	2.2	1.8
50	10	2.8	2.3
75	10	4.4	3.7
100	5	2.8	2.3
125	4	2.8	2.3
150	4	3.4	2.9
175	4	4.0	3.5
200	4	4.8	4.0
250	2	2.8	2.3
300	2	3.4	2.9



次亜うすめ倍率の決定

1. 井戸ポンプ揚水量の確認



① 水栓を全開にします。
※ 同時に使用される可能性が高い水栓（例えば風呂場と台所）は全て全開にします。
② ポリバケツなどを使用して、１分間あたりの吐水量を測定します。
※ 目盛がわからない場合は、付属の計量カップを利用してﾎﾟﾘﾊﾞｹﾂに印をつけ、測定してください。

井戸ポンプ揚水量（L／分）＝[吐水量（L／分）／１個の水栓]×同時に解放した水栓の数

2. 上記、次亜うすめ倍率早見表よりうすめ倍率（次亜ポンプダイヤル目盛）を決定してください。

次亜の補給のしかた

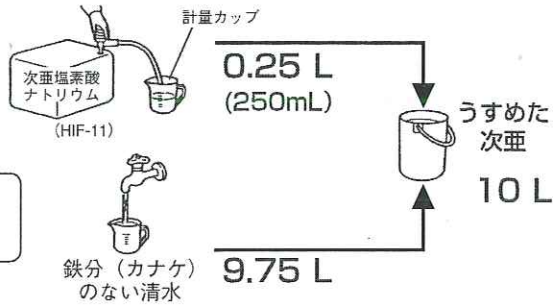
3. ポリバケツを用意いただき、算出していただいたうすめ倍率分だけ、次亜と水を付属の計量カップを使用してポリバケツに入れてよくかきまぜてください。

〈例〉井戸ポンプ揚水量20L／分の場合、上記の次亜うすめ倍率早見表より、うすめ倍率は40倍となります。

うすめ倍率40の次亜を作る場合

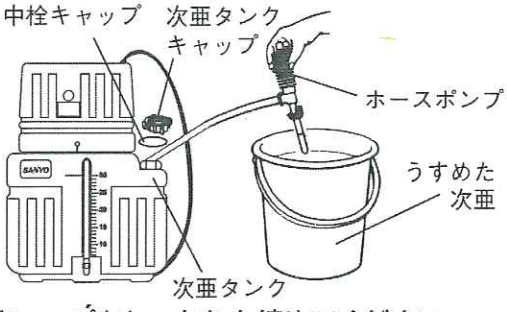
うすめ倍率から次亜の量を算出し、次亜と鉄分（カナケ）のない清水でうすめた次亜が10Lになるようにします。

次亜（5%別売）➡ うすめた次亜10L／うすめ倍率40倍 ＝0.25L（250mL）
鉄分（カナケ）のない清水➡うすめた次亜10L－次亜（5%別売）0.25L（250mL）＝9.75L



※ 次亜をうすめるために使用する水は鉄分（カナケ）のない清水を必ず使用ください。
※30L補給する場合、上記3～4の項目を3回繰り返してください。

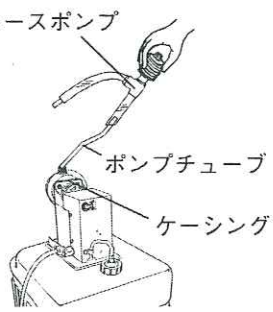
4. 次亜タンクの次亜タンクキャップを取りはずしてください。次亜タンクに付属のホースポンプを使用してうすめた次亜を補給してください。



※ 次亜タンクの容量は30Lです。次亜水位が満印（目盛「30」）位置を越えないよう補給してください。
● 付属の計量カップ、ホースポンプ、用意していただいたポリバケツは次亜補給専用とし、使用後は水洗いして次亜と共に保管してください。
※ 灯油補給などと共用しますと水が飲めなくなります。

5. 補給後は中栓ｷｬｯﾌﾟ、次亜ﾀﾝｸｷｬｯﾌﾟおよび次亜（別売）のキャップをしっかりと締めてください。

※ しっかりと締めないと薬品の除菌力が弱まり本来の性能を発揮できなくなります。また、残った次亜はお子さまの手の届かない冷暗所に保管してください。



6. 次亜ポンプのケーシングにうすめた次亜を満たしてください。

※最初は逆止弁のボールがくっついたり、乾燥したりして次亜ポンプが自吸しないので次のようにしてケーシング内に次亜を満たしてください。
① 配管に接続している注入側ポンプチューブの先端をはずします。
② ホースポンプに注入側ポンプチューブの先を差し込み、液を吸い上げます。
③液がケーシング内を満たしたら、注入側ポンプチューブを元通り接続してください。

7. 井戸ポンプの電源を入れてください。

※７ページをご覧になり次亜注入量（ダイヤル）の調整を行ってください。

仕様

品　　番	ＨＥ－３０	最大注入量	１８mL／分
ポンプ型式	耐薬品性ダイヤフラム式	最大処理水量	３００Ｌ／分
モーター	単相誘導電動機	添加物	次亜塩素酸ナトリウム
電　　源	単相１００Ｖ(50/60Hz)	次亜タンク容量	３０Ｌ
消費電力	１８Ｗ	製品寸法	高さ565mm×幅400mm×奥行き300mm
最高使用圧力	３００ｋＰａ(3kgf/cm²)	製品質量	５．５kg

● 本製品は井戸ポンプと配管接続してご使用になれます。
※ 水圧が３００ｋＰａ（３ｋｇｆ／cm²）を越える井戸ポンプ、および流量スイッチで停止する井戸ポンプには使用しないでください。

お客様への引き渡し

1. お客様に除菌器の取り扱いと取扱説明書の注意事項や日常の点検、お手入れの方法など、現品で具体的に説明してください。
2. 寒冷地での凍結防止対策は具体的に説明してください。
3. 長期間お使いいただくためには、定期点検が必要なことをお客様にご説明のうえ、点検の相談や使用上の質問などに適切に対応してください。
4. 保証書に所定事項をご記入のうえ、取扱説明書とともにお客様にお渡しください。

お客さまによく説明してください。

① ご使用の当初はカルキの臭いが気になるかも知れませんが都市水道と同じ成分で除菌しますので、人体への影響はありません。

② 取扱説明書の「使用上のご注意」「次亜注入量（ダイヤル）の調整方法」「次亜の補給」の項（５～７ページ）をよく説明してください。

● 一般家庭の１日あたりの平均使用水量は、４人家族で１トン程度です。
● 夏期など、水の使用量が増加する場合は、次亜の補給周期が早くなりますので注意をしてください。
③ ご使用の状態を、下記の「覚え書き事項」の欄に記入してください。

覚え書き事項

据付時、販売店に記入してもらってください。サービス依頼の際便利です。

●お取り付け日　　年　月　日	●１日の使用水量　　トン
●製造番号No.	●ダイヤル調整目盛
●残留塩素量（調整後）　　ppm	●次亜のうすめ倍率　　倍
●ポンプの機種、出力	●次亜補給までの期間　　日に１回
●販売店名、工事店名	●水栓の数
●住　所	●TEL